

令和2年度  
(2020年度)

## 観光にぎわい部の取り組み実績

<部長の方針・考え方>

- ①新型コロナウイルス感染症で影響を受けた市内事業者への支援の実行
- ②新しい生活様式をふまえた観光施策とにぎわいづくりの推進
- ③総合文化芸術センターオープン前後における多彩なジャンルの事業展開
- ④枚方宿と東部地域の活性化に向けた具体的検討
- ⑤文化財とスポーツを活用した観光施策の検討と実践

### 具体的な取り組み：新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市内事業者への支援

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市内事業者を支援するため、飲食店が販路拡大を目指して実施するデリバリーサービスを助成する「デリバリー支援事業」をはじめ、市内でテナント運営を行う事業者のうち大阪府の支援金の対象とならない事業者支援として「事業継続固定費支援金」を実施するほか、緊急融資の認定や信用保証料の補給などの資金繰り支援に取り組みます。

また、「事業者支援総合相談窓口」を設置し、国・府も含めた各種支援策の最新情報を提供するとともに、社会保険労務士・行政書士を配置し専門相談にも対応します。さらに、これからの新たな生活様式に対応した支援策の検討を進めるなど、市内事業者に対し継続した支援に取り組みます。

<b>実 績</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>① 「デリバリー支援事業」 ＜サービス利用料支援額(事業者)：1,282,630円 ポイント付与件数(個人)：12,870件＞</li><li>② 「事業継続固定費支援金」＜交付件数：464件＞</li><li>③ 「事業者支援総合相談窓口」 ＜相談受付件数：4,546件（うち専門相談81件）＞</li></ol>
<b>説 明</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>① 事業者向けでは出前館、LINEデリマでデリバリーサービスを開始した市内飲食店に対しサービス利用料を補助し、個人向けでは出前館、LINEデリマを利用し市内店舗から市内へ配達を依頼した場合、1,000円以上の購入でLINEポイント500ポイントを付与しました。</li><li>② 市内においてテナント契約で事業を営み、府の支援金の対象とならない事業者に対し、市内事業所1か所につき10万円を交付しました。</li><li>③ 各種支援策の最新情報の提供及び社会保険労務士・行政書士による専門相談を実施するとともに、「セーフティネット保証4号」「セーフティネット保証5号」「危機関連保証」といった一般保証とは別枠の保証の対象とする資金繰り支援を実施しました。 今後の取り組みとして、市内の感染症対策店への支援として、「小規模事業者事業継続支援金」や「備品購入補助金」を支給するとともに、「プレミアム付商</li></ol>

	<p>品券事業」の実施を通して地域における消費を喚起・下支えします。また、令和2年度に引き続き「事業者支援総合相談窓口」を設置し、国・府も含めた各種支援策の最新情報の提供や専門家を配置し専門相談にも対応します。</p>
--	---

**具体的な取り組み：ネットワーク等を活用した観光推進と「にぎわい」の復興**

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、市内の観光資源を紹介する「バーチャルツアー」動画をYouTubeの市公式ホームページへ配信するほか、テイクアウト・デリバリー紹介サイトの情報発信を5月から開始します。

また、国の観光需要喚起策である「Go To キャンペーン」を活用するとともに、文化財をはじめ、スポーツ、商工業、農業を「観光」や「にぎわい」のキーワードで連携を図り、民間企業等と共に魅力あるコンテンツを組み合わせた多彩なツーリズムの開発を進めます。加えて、友好交流都市事業の一環として、各都市の魅力ある観光資源についてVR技術を用いた動画をオンラインで情報発信するとともに、新型コロナウイルス感染症の収束後に、新たなにぎわいづくりや市の魅力向上、交流人口の増加に繋がるイベント等を速やかに開催できるよう準備を進めます。

<p><b>実績</b></p>	<p>① 「バーチャルツアー」動画の公開。＜動画数：6件＞          ② 地域産業資源を活用したツーリズムの開発。          ③ 天の川・七夕伝説PR情報誌の発行。＜発行数：18,000部＞</p>
<p><b>説明</b></p>	<p>① 地域の魅力をYouTubeで発信するバーチャルツアーを作成し、公開しました。          ② お茶の京都DMOが主催するバスツアーのコースに百済寺跡を組み込み、地域産業資源の発信に繋がりました。引き続き、広域連携や地元の民間団体などと連携しながら観光コンテンツや様々なツーリズムの開発・充実に取り組みます。          ③ 枚方・交野天の川ツーリズム協議会において、七夕の啓発や天野川沿川の散策コースと店舗を紹介する情報誌「カタカタおさんぽmagazine」を発行しました。情報誌の効果を検証しつつ、令和3年度も発行します。</p>

**具体的な取り組み：枚方市若手芸術家支援事業「アート・スプラウト WEB版」の開設**

新型コロナウイルス感染症の影響により、活躍の場が失われている枚方ゆかりの若手アーティストに発表の機会を提供（支援）する動画配信事業を6月から開始します。枚方市アーティストバンクの登録者から参加を募り、撮影した音楽やダンス等の実演をYouTubeの市公式ページに配信するもので、クラシック音楽から日本舞踊までさまざまなジャンルの若手芸術家を紹介します。併せて、登録者を増やし、美術工芸ジャンルのビジュアルアーツにも対象を拡大するとともに、映像・音質を向上させるなど、本格実施に取り組みます。

<p><b>実績</b></p>	<p>① YouTube の市公式ページで実演動画を配信。＜配信実績：16 組＞</p>
<p><b>説明</b></p>	<p>① 枚方市アーティストバンクに登録している若手芸術家に出演を依頼し、パフォーマンスアーツのクラシック音楽 11 組、ダンス 3 組、日本舞踊 1 組、津軽三味線 1 組の計 16 組に実演をしていただきました。</p> <p>また、配信できなかった、美術工芸分野のビジュアルアーツについては、本格実施に向けて検討を進めました。</p>

**具体的な取り組み：枚方市総合文化芸術センターの整備とオープン前後に向けた取り組み**

現在整備中の枚方市総合文化芸術センターについては、新型コロナウイルス感染症の影響で工事が一時中断しましたが、令和3年9月のオープンに向けて、整備を着実に進めていくとともに、施設の維持管理だけでなく、これまでのソフト事業をより発展・強化できる事業者を選定します。

センターは市駅周辺再整備の契機となることから、オープン前後において、魅力的で多彩なジャンルの事業を数多く展開し、市駅周辺地域全体の魅力向上や活性化を促進します。併せて、総合福祉会館との連携や社会包摂の趣旨を踏まえた事業を実施するなど、センターに携わる利用者の裾野を広げ、本市の文化芸術の拠点施設として市民に愛される施設となるよう、開館準備業務に取り組みます。

また、ネーミングライツパートナーを公募し、企業等の協力により、施設の管理運営を行います。

<p><b>実績</b></p>	<p>① 令和2年8月に総合文化芸術センター使用等に関する市民説明会を実施。施設の管理運営を行う指定管理者を指定し、令和3年9月のオープンに向け開館準備業務を実施。＜市民説明会：5回、出席者約250人＞</p> <p>② ネーミングライツパートナーを公募し、センター内の4施設の契約（令和3年4月～令和8年3月）を締結。＜契約件数：4件、年額：1,610万円＞</p>
<p><b>説明</b></p>	<p>① 令和2年8月28日、29日に、総合文化芸術センター使用等に関する市民説明会を実施し、当初4回を想定していましたが、出席希望者多数のため1回追加し、計5回で約250人が出席しました。</p> <p>令和3年3月竣工予定が、新型コロナウイルス感染症の影響により、5月竣工に変更となりましたが、予定どおり9月オープンに向けて準備を進めました。</p> <p>プレゼンテーションにより指定管理者を選定後、議会の承認を経て指定し、開館準備業務を進めるとともに、オープニングイヤー企画の検討を進めました。今後、オープニングイヤー企画については、令和3年度～令和4年度にかけて、順次取り組みます。</p> <p>② ネーミングライツパートナーと契約を締結したことにより、施設の維持管理費に充てる次の財源（年額）を確保することができました。学校法人関西医科</p>

	<p>大学と枚方信用金庫がパートナーとなり、施設の愛称、ネーミングライツ料は、「関西医大 大ホール」1,050万円、「関西医大 小ホール」300万円、「ひらしんイベントホール」150万円、「ひらしん美術ギャラリー」110万円です。</p>
--	---

**具体的な取り組み：枚方宿を中心とする観光施策の推進と東部地域の活性化**

本市の地域資源の一つである「枚方宿」について、同地区の活性化及び観光客の誘客を図るため、淀川、枚方宿、枚方市駅周辺のそれぞれのエリアを面で捉えた施策を推進する観光施策プロジェクトチームを設置し、枚方宿地区内における観光拠点機能の整備について検討を行います。

また、北河内唯一の農業振興地域である東部地域について、貴重な農空間や里山など自然環境豊かな地域特性を生かした取り組み（活性化策）などについて、東部地域活性化プロジェクトチームを設置し、様々な観点から検討を進めるとともに、観光施策に活用できる空間の情報収集に努めます。

<p><b>実績</b></p>	<p>① 観光に関するプロジェクトチームの設置及び枚方宿地区活性化の検討。 ② 東部地域活性化プロジェクトチームの設置及び課題抽出。</p>
<p><b>説明</b></p>	<p>① 観光に関するプロジェクトチームにおいて、地元と意見交換を行うとともに、先進地を視察し事例研究を行いました。また、にぎわいづくりのきっかけとなるイベントを企画検討するとともに、枚方宿地区に整備を検討している観光交流施設のあり方や機能について話し合いを行いました。令和3年度も引き続き枚方宿地区の観光活性化・賑わい創出の実現に向け、民間活力を活用した観光交流施設の整備について検討を進めます。</p> <p>② 東部地域の資源を生かした地域活性化を検討するため、東部地域活性化プロジェクトチームを設置し、地域住民との意見交換等を行いながら活性化に向けた課題を抽出しました。今後は具体的な取り組みの実施に向けて、地域や事業者、関係部署と連携を図りながら引き続き検討を進めます。</p>

**具体的な取り組み：農業振興の推進と市内大学と連携した都市農業の活性化**

平成30年度より実施しているパイロット事業「ちょっと本気の野菜づくり講座」の検証結果を踏まえて、シルバー世代を中心に農業の新たな担い手を育成する効果的な事業展開を検討します。さらに、継続した農業従事に意欲ある講座修了生の受け入れ体制づくりやグループ就農の仕組みづくりを確立するとともに、農地銀行の活用や農地中間管理機構との連携等により、遊休農地の利活用につなげます。

さらなる都市農業の活性化を図るため、特産物（農産物）の創出や市内商工業者と、摂南大学農学部との連携を図り、枚方産農産物の特産化や6次産業化に取り組めます。

また、農業委員と農地利用最適化推進委員の任期が令和2年7月19日に満了となるため、新たに令和2年7月20日から3年間の任期となる候補者を枚方市農業委員等候補者評価会議にて

選定します。

<b>実績</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>① シルバー人材センターとの連携により、シルバー世代が農業に参画できる体制を構築。</li><li>② 農地銀行を活用した農地のマッチング。＜新規の利用権設定面積 19,426 m<sup>2</sup>＞</li><li>③ 摂南大学との連携による「すももサイダープロジェクト」の起ち上げ。</li><li>④ 市内商業者と連携した枚方産農作物の商品開発。＜さつまいも鯛焼き 13,300 袋、枚方ビールカレー 2,000 箱＞</li><li>⑤ 新たな枚方市農業委員及び農地利用最適化推進委員の選定。＜枚方市農業委員 15 人、農地利用最適化推進委員 8 人＞</li></ul>
<b>説明</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>① 準農家育成講座は民間主体による実施へ移行し、併せて、シルバー人材センターとの連携により、年間を通じた農地管理や農作業に関する受託メニューを拡大することで、シルバー世代が農業に参画しやすい体制を構築するとともに、農地所有者にチラシを配布する等の周知を行いました。今後も引き続きシルバー人材センターとの連携を図り、効率的な事業展開を検討します。</li><li>② 準農家育成講座の修了生が貸借設定した農地を含め、新たに約 1.9 ヘクタールの農地において利用権設定を行いました。今後も、農地の遊休化を防ぐため、意欲ある農業従事者が農業に従事できるよう、農地銀行等を活用した農地のマッチングに取り組めます。</li><li>③ 令和 2 年 4 月に摂南大学農学部が開設されたことから、令和 3 年 3 月に農業振興及び食に関する連携を追加した包括連携協定を新たに締結しました。また、6 次産業化に向けて、杉地区のすももを活用した「すももサイダープロジェクト」を起ち上げ、令和 3 年度の試作品作りに向けて検討を進めました。今後も引き続き、農業従事者とも連携を図りながら、商品化に向けて具体的に検討を進めます。</li><li>④ 市内商業者と連携して、市内農家が栽培したエコ農産物のサツマイモ 600kg を活用し、枚方産さつまいも鯛焼きの商品化を行い、令和元年度の約 4.4 倍となる 13,300 袋を限定販売しました。また、令和 2 年度は市内スーパーのみならず、市外や府外等でも販売を行うことで、商品を広く PR しました。さらに、枚方産たまねぎを使った枚方ビールカレーの商品化を行い、2,000 箱を限定販売しました。今後も引き続き、農業従事者や市内商業者と連携を図りながら、市場ニーズに応じた商品開発を検討します。</li><li>⑤ 令和 2 年 7 月 20 日からの任期となる新たな枚方市農業委員及び農地利用最適化推進委員について、候補者 23 人（農業委員 15 人、農地利用最適化推進委員 8 人）に対し、4 月に農業委員等候補者評価会議を開催し、新たな農業委員等 21 人の選定を行いました。</li></ul>

## 具体的な取り組み：起業支援のブランド化とICTを活用した商工業の振興

これまで創業する機会の少なかった世代に向けて、創業意識を啓発する新たな取り組みを展開し、さらなる創業環境の充実とブランド化を進めるため、新型コロナウイルス感染症予防対策を確保した上で、市駅周辺の民間商業施設等と連携した新たなパイロット事業に取り組みます。併せて、パイロット事業と地域活性化支援センターの機能を連携させることで、本市の創業支援環境の充実を図ります。

また、NICT（国立情報通信研究機構）等と連携し、ICTを活用した実証実験を検討するなど、市内中小企業における課題の解決につながる支援に取り組むとともに、市内事業者への支援を継続して行います。

<b>実績</b>	① 産学公連携フォーラムの開催。 <開催回数：1回 参加者：84人>
<b>説明</b>	① 新型コロナウイルス感染症の影響により、協働の事業主体であるひらかた地域産業クラスター研究会が活動されないなど、NICTとの連携による地域経済の活性化策の協議・検討は下半期以降にずれ込みましたが、令和3年1月23日（土）に「AIは活用できる！最新テクノロジーの実装と生産性向上」をテーマに、市内事業者による過去の取組み事例の発表を含んだ「産学公連携フォーラム」をオンライン開催しました。今後も引き続き、NICTと連携を図り、市内中小企業の抱える課題解決に繋がる具体策を検討し、その内容を「産学公連携フォーラム」を通じて市内事業者と共有化を図ることで支援につなげていきます。

## 具体的な取り組み：歴史文化遺産の保存とさらなる活用

特別史跡百済寺跡、史跡楠葉台場跡、枚方宿など先人から伝えられてきた多様な歴史文化遺産について、記録・保存するとともに、歴史の薫り豊かなまちづくりや観光施策への活用・展開を図り、まちへの誇りと愛着を育むため、各種イベントの開催や再現イメージの効果的な伝達方策等について検討します。

「特別史跡百済寺跡」再整備工事については、東南角地の整備と公園東側の基盤整備、築地堀の復元実施設計を行うとともに、関連する由緒のある自治体との交流事業の可能性（友好交流資料館提携や物産紹介など）について協議検討を進めます。

また、枚方宿鍵屋資料館や旧田中家鋳物民俗資料館においては、新型コロナウイルス感染症予防対策を確保し、安心して見学や講座等を行うことで、幅広く市民に歴史文化を楽しんでいただく事業に取り組みます。

<b>実績</b>	① 国史跡・牧野車塚古墳史跡保護事業、府天然記念物・枚方田中邸のむく樹勢回復事業の実施のほか、歴史文化遺産の記録・保存を実施。 <埋蔵文化財調査：38件（延べ215日）、建造物調査2件、美術工芸調査1
-----------	---

	<p>件、写真調査1件、文書調査2件、民具調査8件&gt;。</p> <p>② 各種イベントを開催するとともに再現イメージの効果的な検討を実施。        &lt;文化財関連講座・イベント13件(うち5件中止)、文化財説明板の新設5件・修繕4件、文化財展示会3箇所&gt;</p> <p>③ 特別史跡百済寺跡の東南角地擁壁工事、一部の造成等基盤整備、遺構及び参道の表層舗装。&lt;事業費：61,674千円&gt;</p> <p>④ 枚方宿鍵屋資料館及び旧田中家鋳物民俗資料館における歴史文化に親しめる展示や講座の開催。        &lt;枚方宿鍵屋資料館：入館者3,784人、小中学校の見学者数308人(延べ6校)、企画展4件、ミニ展示2件、主催講座12件&gt;        &lt;旧田中家鋳物民俗資料館：入館者数3,874人、小中学校の見学者数1,361人(延べ18校)、企画展3件、主催講座10件、体験工房講座14件&gt;</p>
<p style="text-align: center;"><b>説 明</b></p>	<p>① 平成30年台風21号による被害を受けた牧野車塚古墳の墳丘の復旧・養生や、樹勢の衰えが著しい田中邸のむくについて土壌改良及び幹の養生等を実施するとともに、土木工事等により失われる埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査、国登録有形文化財の登録に向けた旧枚方宿の町家調査等、各種調査を実施しました。今後も引き続き、所有者・事業者の協力を得ながら、これまで受け継がれてきた文化財を次世代に繋いでいきます。</p> <p>② 大阪工業大学の協力で百済寺創建時の様子をAR技術で再現することについて研究したほか、復元図を実背景と重ねて過去の建物の様子を実感してもらえる透過パネル2基を百済寺跡に設置しました。今後も引き続き、ICTの活用について検討を行うとともに、広い世代に文化財に親しんでいただけるような取り組みを進めます。</p> <p>③ 特別史跡百済寺跡再整備実施設計に基づき、東南角地の擁壁工事を行ったほか、南院及び東北院箇所の一部分の造成等基盤整備、遺構及び参道の表層舗装を行いました。令和3年度は、外郭築地塀の実設計や、公園東側の基盤整備を行なうとともに、説明板を設置します。</p> <p>④ 両資料館とも、新型コロナのため、長期休館となりましたが、開館中は、感染防止対策の徹底、コロナ追跡システムの利用呼びかけ等を行い、定員を見直した上で展示や講座を開催しました。        また、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)と連携し、資料館内及び展示解説の様子を360度映像で撮影した動画をYouTubeにて閲覧できるようにするとともに、鍵屋資料館では、遠隔操作による非接触の館内案内を試験的に実践しました。鋳物民俗資料館では、コロナ禍で見学に来られない小学校向けに、教科書の単元に沿った展示解説を動画で作成しDVDの貸し出しを行いました。今後も引き続き、感染予防を徹底し展示・講座を開催するとともに、館外での展示等、身近に文化財を感じてもらえる取り組みを検討します。</p>

## 具体的な取り組み：スポーツ施策の推進とスポーツツーリズムの創出

スポーツの持つ力や素晴らしさが社会の活力につながるよう、生涯スポーツや健康スポーツを通じた地域の活性化を図るため、新型コロナウイルス感染症予防対策を確保した上で、枚方市スポーツ協会等と連携したスポーツ施設以外の公園や河川堤防において、健康イベントを開催するなど、スポーツの価値を再実感できる事業に取り組みます。

地域資源を活用した歴史ウォーキング・ジョギング教室等をはじめ、市内の民間事業者や観光関連団体等と連携し、新たにオリンピック種目となったスポーツの紹介やニューススポーツの研究と普及促進などに取り組みます。また、地元スポーツチーム支援の検討プロジェクトチームにおいて、地元チームのPRを強化し、市民との交流機会や関連グッズの開発等に取り組みます。

野外活動センターについては、東部地域活性化プロジェクトチームと連携し、市内外から多くの利用者呼び込むなど、教育キャンプ場から観光宿泊施設への見直しと活性化に取り組みます。

<p><b>実績</b></p>	<p>① 新春走ろうかいや市民オリンピック等を新たにオンライン事業として実施。</p> <p>② ニューススポーツの普及、地元スポーツチーム応援グッズ等の作成及び地域間連携強化のためのコーディネート。</p> <p>③ 野外活動センターの利用拡大及びPRの充実。</p>
<p><b>説明</b></p>	<p>① 予定していたオリンピック・パラリンピック関連のスポーツイベント事業は、中止となりましたが、他の通年事業も併せてインターネット活用でオンラインによりコロナ禍でも可能なスポーツ補助事業を枚方市スポーツ協会が実施しました。</p> <p>(1) 「新春走ろうかい」は、令和2年1月1日～17日の間、オンラインマラソンとして878名の参加</p> <p>(2) スポーツ教室事業は、YouTubeチャンネルで21動画を配信し約36,000回の再生回数を記録</p> <p>(3) ひらかた市民オリンピック代替えのチャレンジ動画は、381回再生今後も引き続き、新しい生活様式も踏まえた地域スポーツ活動を推進します。</p> <p>② 新たなオリンピック種目スポーツ及びニューススポーツについては、11月開催のひらかた淀川ファミリーフェスタにてストラックアウト、輪投げなどスポーツ推進委員が啓発を実施しました。</p> <p>地元スポーツチーム支援については、パナソニックパンサーズとFCティアモ枚方のさらなるPRのため、市役所庁舎内やニッペパーク岡東中央掲示板に試合結果などを掲示しました。また、FCティアモ枚方の応援旗を作成、ホームゲームで設置することで応援の一体感を醸成し、市民への周知を実施しました。</p> <p>また、パナソニックパンサーズのホームチームとしての機運醸成と地域間連携強化のために、地域とのコーディネートを行い、五常校区での見守り隊実施や枚方校区での応援組織設立につなげました。</p>

	<p>今後も引き続き、地元スポーツチームとの連携を強化することで、スポーツによる地域活性化につなげる取組を進めます。</p> <p>③ 東部地域の資源を生かした活性化を検討するためにプロジェクトチームを設置し、地域住民との意見交換等を行いながら計8回の検討会議を実施し活性化に向けた課題を抽出しました。また、野外活動センターにおいて、新たな利用者を誘引するため、利用者視点に立ったホームページとして全面リニューアルを実施し、機能性の向上とトレンドに対応したWebデザインとしイメージを刷新しました。</p> <p>学校キャンプについては、コロナ禍で年度前期は閉鎖としていましたが、後期には18校の利用があり、その他交野市域のみで実施されていたトレイルランニング大会のコースに野外活動センターを含ませたことで約500人の参加者にセンターの新たな活用をPRできました。</p> <p>今後も引き続き、貴重な自然資源を生かし、市内外から多くの利用者呼び込めるアウトドアレジャーを楽しめる施設として、活性化に向けた取組を進めます。</p>
--	---

### 具体的な取り組み：防災協力農地制度の構築とため池ハザードマップの作成

都市部の農地は空地として火災の延焼防止や一時避難場所、災害後の資材置場等として活用できることから、防災協力農地制度を構築し、当該農地の設定・周知を行います。

ため池については、台風等による堤防決壊に伴う水害等が想定されることから、適切な管理推進と防災意識の向上のため、「ため池管理マニュアル」や「ため池ハザードマップ」を作成します。また、枚方版「ため池管理マニュアル」を作成するとともに、防災重点ため池16箇所について「ため池ハザードマップ」を作成し、管理者や市民に周知を図ります。

<p><b>実績</b></p>	<p>① 令和3年3月に枚方市防災協力農地登録制度要領を制定。</p> <p>② 水防ため池に指定されている16池のため池ハザードマップの作成。</p> <p>③ 枚方市ため池管理マニュアルの作成。</p>
<p><b>説明</b></p>	<p>① 災害時の避難空間や復旧時の資材置場等として活用可能な農地を登録する防災協力農地登録制度の実施に向け、枚方市防災協力農地登録制度要領を制定し、広報やホームページ、農委だより等で制度の周知を図りました。今後も引き続き、制度の周知を図り防災協力農地の登録を促進します。</p> <p>② ため池が決壊した場合に下流への影響が大きい大阪府指定の「水防ため池」16池について、令和元年度より2か年かけて「ため池ハザードマップ」を作成し、広報やホームページで公表し、市民への周知を行いました。今後も引き続き、ため池ハザードマップを活用して市民への意識啓発を行うことで、地域住民の自主防災意識の向上や災害時の被害軽減等につなげていきます。</p> <p>③ 集中豪雨や大規模地震等によるため池の決壊のリスクを最小限に抑えるた</p>

	<p>め、適切なため池管理に必要なポイントやルールをまとめた「枚方市ため池管理マニュアル」を作成し、市ホームページへ掲載するとともに管理者に配付しました。今後は、ため池の日常点検や定期点検に本マニュアルを有効的に活用することで、適切な維持管理につながるよう、さらなる周知徹底を図ります。</p>
--	---

**具体的な取り組み： 公園の整備と緑地保全や緑化推進によるみどり豊かな都市環境の創造**

王仁公園については、現施設の指定管理運営と並行して、魅力あふれる公園のあり方を検討し、パークマネジメントの考え方を取り入れ、PPP/PFI手法等（P-PFIを含む）の導入による可能性を調査し、再整備の基本方針を定めます。また、香里ヶ丘中央公園については、香里ヶ丘地域の活性化につなげることを目的に、駐車場拡張等の整備を行うとともに、図書館と「みどりの広場」を一体的に運営し機能連携による賑わいづくりを進めるなど、リニューアルオープンに向けて取り組みます。緑化推進については、まちなか緑化の推進や公園・緑地の利活用の促進を効率的・効果的に推進できるよう、緑化に関わる市民活動の支援を行うとともに、里山保全についても、市民等による森林ボランティアや企業による環境貢献活動への支援などにより、里山の保全・活用を促進します。

4月の新型コロナウイルス感染症予防に係る緊急事態宣言の発令を受け、公園施設等においても、運動施設や大型遊具、駐車場等の利用制限に併せて利用方法の啓発看板の設置など3つの密を回避するための対策を講じ、利用者への情報伝達が的確かつ迅速に伝わるよう努めました。今後は、新たな日常の中での公園の社会的効用に関する情報発信と安全利用のための対策に取り組みます。

<p><b>実績</b></p>	<p>① 9月末から12月にかけて、初心者向けの里山楽校「未来に残そう！ ひらかたの里山」（6回の連続講座）を実施。＜受講者15名、修了者14名＞</p> <p>② 9月中旬から2月にかけて、経験者向けに「森林スペシャリスト育成講座（10回の連続講座）」を実施。＜受講者17名、修了者17名＞</p>
<p><b>説明</b></p>	<p>① 初心者向けの里山講座で、市内の里山保全活動団体に講師を依頼し、各団体の日頃行っている作業を体験するという実習形式で実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、最終講座及び修了式を行えず、団体加入の後押しができなかったため、団体へ加入した修了者は1名でした。各団体とも、高齢化が進んでいるため、新規加入者の獲得につながるよう、また、里山の魅力、里山保全の必要性を実感してもらえよう、今後も継続していきます。</p> <p>② 平成30年度から3年計画で、座学や動力機械を使つての実習などを取り入れ、中上級者向けボランティア育成講座として実施しました。令和3年度は、3年間の講座における効果を踏まえ、事業実施の可否について検証を行います。</p>